



売掛金明細表・買掛金明細表

売掛金元帳や買掛金元帳の各人名勘定口座の残高の合計は、必ず、総勘定元帳の売掛金勘定や買掛金勘定の残高と一致します。この両者と照合することで、記入の漏れや誤りを発見することができますが、さらに総勘定元帳の売掛金や買掛金の明細を示す表として、**売掛金明細表**と**買掛金明細表**があります。

2色刷りで
非常に見やすく
わかりやすい
構成です。

例題 7-7

次の買掛金元帳の記帳内容に基づいて、期首・期末の買掛金明細表を作成しなさい。また、総勘定元帳の買掛金勘定の内容も示しなさい。

買 掛 金 元 帳

大 阪 商 店		名 古 屋 商 店		岡 山 商 店	
現金	290	繰越	200	仕入	20
		仕入	360	繰越	170
		現金	210	仕入	240
				現金	130
				繰越	60
				仕入	180

解 答

買 掛 金 明 細 表

	期 首	期 末
大阪商店	200	270
名古屋商店	170	180
岡山商店	60	110
	430	560

総 勘 定 元 帳

買 掛 金	
仕入	20
現金	290
現金	210
現金	130
繰越	430
仕入	360
仕入	240
仕入	180
繰越	560

一致

一致

解 説

- ① 買掛金明細表、売掛金明細表は、一定時点の買掛金元帳、売掛金元帳の各人名勘定口座の残高を記入することによって作成します。
- ② 買掛金明細表、売掛金明細表の合計金額と総勘定元帳の買掛金勘定、売掛金勘定の残高とが一致していることを確認します。

買掛金元帳

大阪商店	
現金	290
繰越	270

($¥200 + ¥360 - ¥290 = ¥270$)

買掛金明細表

期首	期
大阪商店	200
仕入	360

Point & Advice

検定試験合格に欠かせない
必須事項や重要ポイントを、
わかりやすく解説しています。

Point & Advice

- 売掛金明細表の期首の合計額 = 売掛金元帳の各人名勘定の期首残高(繰越額)の合計額
- 売掛金明細表の期末の合計額 = 売掛金元帳の各人名勘定の期末残高の合計額
- 買掛金明細表の期首の合計額 = 買掛金元帳の各人名勘定の期首残高(繰越額)の合計額
- 買掛金明細表の期末の合計額 = 買掛金元帳の各人名勘定の期末残高の合計額

練習問題

テキストの章ごとに練習問題が
ついていますので、着実に実力が
身につきます。

記帳練習問題

(解答は、別冊の「記帳練習帳」に記入して下さい)

8

重要問題

次の取引を買掛金元帳(九州商店)に記入し、3月31日付で締め切りなさい。

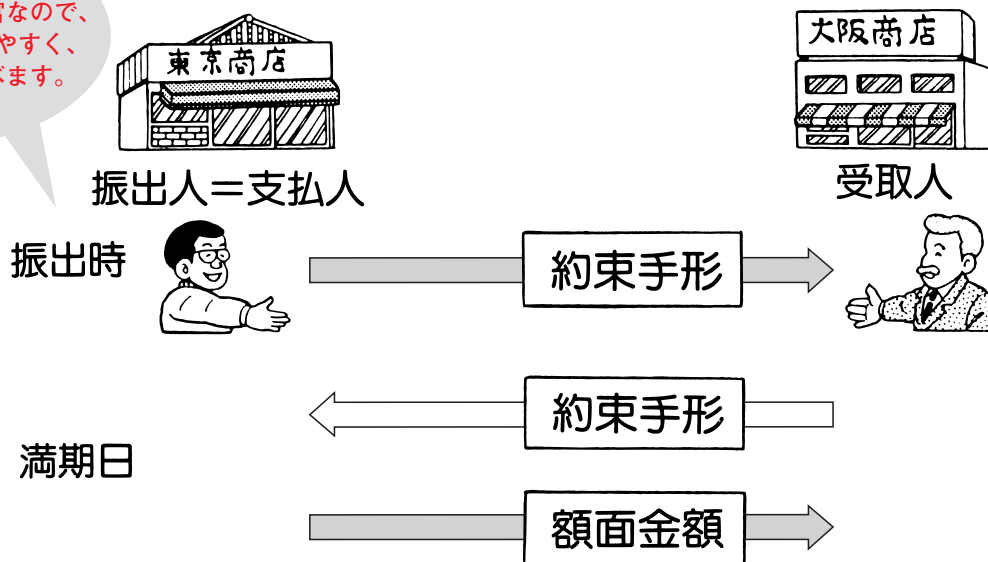
- 3月1日 買掛金の前月繰越高は¥650,000である。なお、内訳は、四国商店 ¥300,000、九州商店 ¥350,000である。
- 5日 九州商店から商品 ¥200,000を仕入れ、代金は掛とした。
- 15日 四国商店および九州商店から商品をそれぞれ ¥250,000ずつ仕入れ、代金は掛とした。
- 16日 九州商店から前日仕入れた商品のうち ¥100,000は、不良品であったので返品した。なお、代金は同店への買掛金から差し引いた。
- 30日 四国商店に対する買掛金のうち ¥350,000、九州商店に対する買掛金のうち ¥400,000をそれぞれ小切手を振り出して支払った。

☞ 繰越記入方法に注意して下さい。

- ③ 約束手形を受け取った人は、受取人です。為替手形を振り出した場合と異なるのは、約束手形を振り出した人は、振出人であると同時に支払人となるという点です。

8-7 約束手形の取引

図解・イラスト
図解やイラストが豊富なので、読みやすく、理解しやすく、視覚的に楽しく学べます。



- ④ 期日（満期日）になりますと、振出人であり、支払人でもある東京商店は、大阪商店に¥600,000を約束手形と引き換えに、支払います。

約束手形は、為替手形の「期日に一定額を支払う」という機能を重視して為替手形を発展させた形で出来上がった手形です。

Point & Advice

- 約束手形を振り出した人：振出人であると同時に支払人
- 約束手形を受け取った人：受取人

用語解説
簿記用語の意味や使い方をわかりやすく解説してあるので、初心者でも安心です。

手形債権と手形債務

手形については、手形法という法律があり、特にその手形代金を受け取る権利（債権）や支払う義務（債務）が厳密に定められています。そこで、手形代金を受け取る債権のことを「手形債権」、手形代金を支払う義務のことを「手形債務」と呼びます。

簿記では、この手形債権を受取手形勘定で仕訳を行い、手形債務を支払手形勘定で仕訳をします。

2

約束手形の仕訳

約束手形を使った取引は、為替手形の取引と同様に、**支払手形勘定（負債）**、**受取手形勘定（資産）**に記入されます。

例題 8-3

東京商店は、大阪商店への掛代金支払いのために約束手形¥600を振り出して支払った。なお、支払時には東京商店の当座預金口座から手形の金額が引き落とされ、大阪商店の当座預金口座に入金されるものとする。

東京商店と大阪商店の次の(1)、(2)の場合の仕訳を答えなさい。

- (1) 約束手形の振出時
- (2) 手形の満期日がきた場合

解答

- (1) 約束手形の振出時

東京商店	(借方)買掛金	600	／	(貸方)支払手形	600
大阪商店	(借方)受取手形	600	／	(貸方)売掛金	600

- (2) 手形の満期日

東京商店	(借方)支払手形	600	／	(貸方)当座預金	600
大阪商店	(借方)当座預金	600	／	(貸方)受取手形	600

解説

- (1) 約束手形の振出時

振出人(支払人)の仕訳

- ① 振出人は、買掛金の支払いは完了しましたが、手形の代金の支払いの義務が生じました。
- ② 買掛金が減少しましたから、借方に買掛金勘定を手形の金額でセットします。

(借方)買掛金 600 /

- ③ 手形の代金を支払う義務が生じたから、貸方に負債に属する勘定科目の**支払手形勘定**をセットします。

例題と解説

項目ごとに設けられた例題を解くことで、知識を定着させます。丁寧な解説つきですから疑問点も残りません。

受 入	平成 ×年		摘 要	支 払	内 訳			
					交 通 費	通 信 費	文 房 具 費	雑 費
12,000	10	6	前 週 繰 越					
38,000		〃	本 日 補 給					
			合 計					
			次 週 繰 越					
	10	13	前 週 繰 越					
			本 日 補 給					

テキストで知識を学んだら、すぐに練習問題で身につけることが大切です。『記帳練習帳』はテキストに掲載されている練習問題を解く専用ノート。帳簿記入の技能を順序立てて「書いて覚える」ことができます。

記帳練習問題⑥
テキストA P.152

売 上 帳

平成 ×年	摘 要	内 訳	金 額
5 1	東海商店 掛		
	紳士靴 () ()	()	
	婦人靴 () ()	()	()
10	北陸商店 掛		
	婦人靴 () ()		()
12	北陸商店 戻り		
	婦人靴 () ()		()
25	信越商店 諸口		
	紳士靴 () ()	()	
	婦人靴 () ()	()	()
31	総 売 上 高		()
	()		()
	()		()

受 入	平成 × 年	摘 要	支 払	内 訳			
				交 通 費	通 信 費	文 房 具 費	雑 費
12,000	10	6	前週繰越				
38,000		〃	本日補給				
		〃	郵便切手	6,000	6,000		
		7	帳簿・伝票	5,000		5,000	
		8	バス回数券	3,000	3,000		
		〃	お茶	2,000			2,000
		9	タクシー代	2,500	2,500		
		10	接待用菓子	1,200			1,200
		11	はがき	1,000		1,000	
			合 計	20,700	5,500	7,000	3,200
		11	次週繰越	29,300			
50,000				50,000			
29,300	10	13	前週繰越				
20,700		〃	本日補給				

【解 説】

〔記入上の注意点〕

① 定額資金の金額の計算

週の最初に補給を行いますから、10月6日の繰越金額と補給金額の合計が、定額資金になります（ $¥12,000 + ¥38,000 = ¥50,000$ ）。

② 日付欄の記入

同じ日の取引については、「〃」マークをつけます。

③ 勘定科目の選択

雑費勘定は、特に分類するほどの意味のない費用の取引を処理する勘定科目です。接待用菓子とお茶については、他の勘定科目では処理するのに違和感がありますから、雑費勘定に記入します。

④ 補給時の仕訳

補給時については次ページのような仕訳を行います。このような問題では必ず、補給時の仕訳を考えるようにして下さい。

解説も盛り込んでおり、
わかりやすい内容です。

第1問 (20点)

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

当座預金	受取手形	売掛金	売買目的有価証券
他店商品券	未収金	立替金	前払金
仮払金	備品	支払手形	買掛金
商品券	未払金	預り金	前受金
仮受金	貸倒引当金	備品減価償却累計額	売上
雑益	固定資産売却益	償却債権取立益	仕入
手形売却損	貸倒損失	雑損	固定資産売却損

1. 関東商店から商品 ¥80,000 を仕入れ、代金のうち ¥50,000 は、かねて受け取っていた関西商店振出しの約束手形を裏書譲渡し、残額は掛けとした。
2. 商品 ¥60,000 を売り渡し、代金のうち ¥40,000 は、当店と連盟している北海道商店の商品券で受け取り、残額は当店発行の商品券で受け取った。
3. 期首に備品（取得原価 ¥300,000、減価償却累計額 ¥162,000、間接法で記帳）を ¥130,000 で売却し、代金は後日受け取ることにした。
4. 九州商店に対して商品 ¥30,000 を注文し、手付金として ¥10,000 の小切手を振り出して渡した。
5. 得意先が倒産し、前期から繰り越された売掛金 ¥40,000 が回収できなくなったので、貸倒れの処理を行う。なお、貸倒引当金の残高は ¥30,000 である。

「実践問題集」には6回分の過去問と解答・解説が満載されています。日商簿記検定には傾向とパターンがありますが、この問題集に取り組みだけで過去問対策は十分！ご自身の弱点補強にも非常に役立ちます。

第2問 (10点)

次の問に答えなさい。

1. 下記の商品甲に関する資料にもとづいて、商品有高帳を記入しなさい。
(注意事項)
(1) 商品有高帳は締め切らなくてよい。
(2) 当店は商品の払出単価の決定方法として移動平均法を採用している。

[商品甲に関する資料]

8月1日	前月繰越	100個	@ ¥3,000
6日	仕入	150個	@ ¥3,100
9日	売上	80個	@ ¥5,800
10日	仕入	130個	@ ¥3,120
15日	売上	100個	@ ¥5,800
19日	仕入	120個	@ ¥3,150
24日	売上	130個	@ ¥5,800

2. 前問1で、商品の払出単価の決定方法として先入先出法を採用した場合、商品甲の ① 当月の売上総利益および ② 次月繰越高を求めなさい。

〔解説〕

第1問

仕訳問題です。勘定科目は指定されたものを使います。

1. 仕入れた商品の代金を、裏書手形と掛により支払った問題です。商品代金にて仕入勘定の借方にセットします。裏書手形は他人から受け取った手形を第三者に渡すものなので、受取手形勘定の貸方にセットします。残額については掛とするため、貸方に買掛金勘定でセットします。
2. 商品の販売と商品券の処理の問題です。代金の受取について、他店発行の商品券¥40,000での支払い分は資産である他店商品券勘定で、当店発行の商品券で受け取った残額については負債である商品券勘定で、それぞれ借方にセットします。売上金は貸方に売上勘定でセットします。他店発行の商品券の受け取りは資産の増加であり、当店発行の商品券の受け取りは負債の減少です。
3. 備品の売却に関する問題です。間接法で減価償却を記帳しているので、備品勘定を取得原価で貸方にセットし、借方に備品減価償却累計額勘定で¥162,000をセットします。また、売却代金については未収となっているため未収金勘定の借方にセットします。この問題では帳簿価額より売却価額の方が小さいので、貸借差額を固定資産売却損勘定で借方にセットします（売却価額の方が大きい場合は、固定資産売却益勘定を貸方にセットします）。
帳簿価額：¥300,000 - ¥162,000 = ¥138,000
売却損益（貸借差額）：¥300,000 - (¥162,000 + ¥130,000) = ¥8,000
4. 商品を注文した際に、代金の一部として前もって手付金を渡した問題です。渡した手付金の金額で前払金勘定の借方にセットし、貸方には小切手振り出しのため、当座預金勘定をセットします。注文のみで実際の仕入は行っていないため、仕入勘定は用いません
5. 売掛金が貸し倒れた問題です。貸し倒れた金額で売掛金勘定の貸方にセットします。前期に生じた売掛金の貸し倒れのため、借方は貸倒引当金勘定を用います。この設問の貸し倒れた金額は、貸倒引当金の残高よりも大きくなっています。このため、まず、残高の全額を貸倒引当金勘定で借方にセットし、不足した¥10,000は貸倒損失勘定で借方にセットします。

解答とともに詳しい
解説も満載しています。